

# 教 育 委 員 会 会 議 録

平成29年 1 月臨時会

教育委員会議事録  
(平成29年1月臨時会)

- 1 日 付 平成29年1月4日(水)
- 2 場 所 海老名市役所503会議室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 平井 照江  
教育委員 岡部 二九雄 教育委員 海野 恵子  
教育委員 松樹 俊弘
- 4 出席職員 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎  
教育総務課長 吉川 浩 就学支援課長 奥泉 憲  
教育総務課長施設係長 加賀 丈仁 就学支援課就学支援係主事 大乘 文哉
- 6 書 記 教育総務課庶務係長 佐藤 哲也 教育総務課主事 魚谷 尚子
- 7 開会時刻 午後1時00分
- 8 付議事件  
日程第1 議案第1号 海老名市学校施設再整備計画について  
日程第1 議案第2号 海老名市就学援助費交付要綱の一部改正について(非公開事件)
- 9 閉会時刻 午後2時12分

○伊藤教育長 本日の出席は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会1月臨時会を開会いたします。

傍聴はございません。

今回の署名委員は、岡部委員、海野委員にそれぞれよろしくお願いいたします。

---

○伊藤教育長 それでは、審議に入ります。

日程第1、議案第1号、海老名市学校施設再整備計画についての審議を行います。

説明をお願いします。

○教育部長 それでは、議案第1号、海老名市学校施設再整備計画についてでございます。

本案は、海老名市学校施設再整備計画の策定に当たりまして、コンセプト等を定めたいため、議決を求めるものでございます。

詳しくは担当の教育総務課長から説明をいたします。

○教育総務課長 それでは、お手元の資料に参りたいと思います。

まず「海老名市学校施設再整備計画」策定コンセプトについてでございます。こちらは1.の「計画策定コンセプト」であります、「持続可能」な「夢」のある計画ということで策定をしていきたいと考えております。海老名市は、人口減少が予想される中、健全な財政維持のためにも、公共施設の効率化が求められております。また、高度経済成長期に整備されました学校施設につきましては、老朽化が進み、その対策が喫緊の課題となっております。本計画では、学校施設の再整備を通し、本市の持続可能な行政運営を可能とするとともに、未来のえびな子どもたちに夢を与えることができる計画を策定いたします。

2.の「計画策定キーワード」でございますが、1.再整備は、学校施設を計画的に整備することで、良好な環境を維持するとともに、施設の長寿命化を進め、建設コストの縮減を図るものでございます。なお、この建設コストにつきましては、新築もあるでしょうけれども、改修というものも含まれております。

2.「再編成」であります。こちらは、児童生徒数の推移、それから小中学校、ほかの公共施設の再編を行うことで、小中一貫教育の推進や施設の効率化を図るものでございます。

3.「改革・刷新」でございます。こちらは、児童生徒はもちろんのこと、地域住民の

利用を考慮しまして、学校を地域コミュニティの核とすべく、多機能化、複合化を進め、地域に愛される施設とするものでございます。コンセプトにつきましては以上であります。

お手元の資料2枚目でございます。学校施設再整備計画策定体制イメージでございます。こちらは右側のほうが庁内的なものでありまして、まず、学校施設再整備計画庁内委員会作業部会というのがあります。こちらの中で、課長レベルのメンバーでございますけれども、骨子（案）を策定しまして、それらを受けて、下段になりますけれども、学校施設再整備計画庁内検討委員会で素案を策定していくものであります。素案ができましたらば、こちら教育委員会の中で決定していただきまして、左側、市民参加手法としまして、外部委員会に諮問、答申をするものでございます。外部委員会につきましては（仮）学校施設再整備計画策定委員会ということで策定しまして、メンバーとしましては、PTA代表の方、それから自治連代表の方、また、小中学校長会代表の方、そして学識経験者、2名程度を予定しておりますけれども、そういった方々の委員会に諮問、答申をするものでございます。それらを受けて、学校施設再整備計画（案）をつくりまして、庁内的な政策会議、また、最高経営会議を通り、そしてパブリックコメントをいただきながら、海老名市教育委員会の学校施設再整備計画を策定するものでございます。

右側に矢印、上から下まで描かれておりますけれども、平成30年3月までの平成29年度で学校施設再整備計画（素案）をつくりまして、平成30年9月ごろに整備計画を完成させたいと思っております。

説明につきましては以上です。

○伊藤教育長 委員さん方はあまりそこが通じていないと思うのですが、なぜ、本日ここで話し合わなければいけないかについて、教育部長から経過の説明をしていただけますか。

○教育部長 海老名市の学校施設再整備計画というものを教育委員会として方向性を定めていきたいというところだったんですけれども、公共施設再編計画という市全体の大もとの計画というのがこの3月ででき上がるということになります。その考え方、大枠に基づいて、この学校施設再整備も計画的に進めていきたいという中で、今、再編計画のほうは審議会が立ち上がっております。最終的にその審議会の中で再編計画を定めるに当たって、1月12日に最終的な方向性を委員さん方から出すという日程になっております。その中に学校施設再整備の考え方も盛り込んでいきたいことから、急遽、皆様方にお集まりい

ただきまして、市全体の計画の中でやっていくという方向性をはっきりさせるために、まず教育委員の皆さんにご決定いただいた上で、市全体の再編計画に盛り込んで、そしてまた、学校施設に関してどうしていくかということを考えてまいりたいといった流れの中で進めてまいりたいと思いますので、急遽お集まりいただいて、ご検討いただきたいというふうな状況になっております。

○伊藤教育長 わかりましたか。

○各委員 はい。

○伊藤教育長 12日が条例設置の審議会での再編計画の最後の審議会なんですけれども、我々教育委員会の考え方みたいなものをそこで出して、ある程度まとめていただいて、市の冊子ができた、その再編計画のもとに我々の学校施設再整備計画をつくるという段取りにするという意味で、ちょっとここで皆様方にその考え方、特に策定コンセプトについてご意見をいただいて、このような方向性でいいのかどうかを話してもらいたいなと思いますので、時間が許す限りゆっくり話してもらって、いろいろ考え方を出してもらいたいなと思うのです。

先ほどの説明の中でコンセプトとありましたが、コンセプトって日本語で何ですか。

○教育部長 「基本的な考え方」です。

○伊藤教育長 そのほうがいいんじゃないの。策定の基本的な考え方って、何とか理由にコンセプトってなると、何か違和感があるんだけど。

○教育部長 修正させていただきます。

○伊藤教育長 「海老名市学校施設再整備計画」策定の基本的な考え方のほうがすごく入りやすいんだけど。教育部長がさっき説明して、提案理由にコンセプト等を定めたい、何だコンセプトって。

○教育部長 恐れ入ります。申しわけございません。

○伊藤教育長 そうじゃなくて、皆がわかる言葉がよいかなくて。

○平井委員 わかりません。

○伊藤教育長 そうですね。ということがまず1つあるのと、例えば下の「Sustainability」、「Dream」って、英語が必要なのか。普通、英語の言葉のニュアンスがあるから、それが日本語に変換できないときは外国語をそのままの形で使うんだよね。そういう意味ですよというのがわかるために。でも、ここに来たときに、これだとかえって市民の方々に不理解を招かないかな。これは何て読むのって。そう考えたら、「『持続可能』な『夢』の

ある計画」というのもすごくいい言葉だと思うんだけど、その下は絶対読めないけれども、これは必要なのか。

○松樹委員 サステナブルというのが持続可能。

○教育部長 今、松樹委員がおっしゃったとおり、片仮名でもサステナブルという使い方は少しずつ浸透はしてきていますけれども、確かに、そこまで行き渡っているかというところ、途上というところは否めないと思います。「Dream」は……。

○伊藤教育長 わかる。

○教育部長 わかると思うんですけども。

○伊藤教育長 その辺が少し、出されたときに、教育委員さん方があまり理解していないものがそのまま出るのもあれかなと。そうしたら、日本語の『『持続可能』な『夢』のある計画』ですって、すごく素直な感じがする。それとも、この英語のニュアンスの言葉がつかないと言葉の解釈がうまくいかないとか、曲解されるとか、何かあるかな。

○教育部長 持続可能というのが、どちらかという日本語としてあまり使われていなかったんです。ただ、サステナブルというのが出始めたころから、持続可能ということについて大分日本語としても認知されてきた経緯がありますので、今は日本語だけでもいかれるとは思いますが。

○伊藤教育長 持続可能なエネルギーとか何かは、今、普通に日本語だよ。だから、これが少し、こうやって改めて見るとそうなのかなと。だから、例えば、再整備、再編成、改革・刷新とずっとあるんだけど、言葉として、再整備と再編成のリオーガニゼーションとリデベロップメント、下の文章と対応したときに、教育部次長、これはどういうことなんだろう。再整備というのが建設面のことが書いてあるのかな。

○教育部次長 再整備については、コンセプトが書いてあるところの下に書いてある、実際に老朽化が進んでいるという中で計画的に整備をしていくという意味で、この中には長寿命化もあるでしょうし、あるいは、既存の古いところを改修していくという意味合いもあると思います。それがまず再整備です。再編成については、今度は子どもたちの減少、少子化ということもあるだろうと。もしくは、こちらに書いてある小中一貫教育の推進といった部分も踏まえて、今度は施設を、例えば学区を1つにして校舎を1つにする、あるいは、他のコミュニティセンターのような施設も機能を1つにすることで、おらが学校に近づけるみたいところで施設自体を再編していく、そこにこの違いがあると考えています。

○伊藤教育長 そうやって説明してくれるとわかる。

○教育部長 再整備というのは、どちらかというところハード面、ハード的なものが中心になっています。1. ですね。2. の再編成につきましては、今、教育部次長がご説明申し上げたとおり、数の推移などを踏まえた中でどのように持っていくかというソフトの部分についても考えていきたいということがもとになっております。

○教育部次長 補足説明させていただきますと、再整備、再編成というのは、冒頭にあった持続可能ということになると、行財政運営で財政的にも非常に厳しくなっているということをお考えたときに、どうしても縮小傾向になりがちになってしまうということもございます。その中で、やはり夢のある計画にしていきたいということで、この改革・刷新ということで、従前の概念にとらわれずに、子どもたちのことを中心に、例えば機能強化であるとか、あるいは多機能化ということで、今まで他の施設が担っていたような機能も学校に含むことで、結果的に夢のある計画に結びつけることができるのではないかとということで3つのキーワードを並べさせていただいたところです。

ですので、このコンセプト、先ほどの基本的な考え方ということでご修正いただくということですが、その基本的な考え方を下支えする形でこの3つのキーワード、言葉がサポートするような位置関係になっている。それがこの1枚のペーパーに示されたということでございます。その辺でまた教育委員方のご意見で何かお入れいただければ、この中に反映ができるかなと思っております。

○伊藤教育長 だけれども、わかりやすいほうがよいと思う。教育委員さん方がこれで形にしてやるのだけれども、これで皆さんがわかりやすいとか何かというと、例えば3. はすごく包含が大きいから、例えば再整備とか再編成は、要するに学校施設で普通にやることじゃないですか。例えば改革・刷新（リノベーション）は、言葉の並列性から言うと、複合化とか何かのほうが普通じゃないですか。これが改革・刷新に当たるのかどうか。

○教育部長 学校施設で言えば、やっぱり大きな転換だと思いますので、改革とか刷新に当たるのではないかとこの考え方で位置づけています。

○伊藤教育長 見る側にしたら、改革、複合化とか何かは具体的な言葉ではないのか、多機能化とか何かという言葉ではないのか。だって、学校施設再整備するのに改革とか刷新するほどのことでもない。だからそれって、もっともっと教育の刷新とか改革だったとしてもよく意味が通じるんだけれども、施設を再整備するのに施設を改革か……。

○教育部次長 イメージとしては、図書館のときにこの言葉が実は使われていて、図書館

はリニューアルということではなくてリノベーションという言葉を使って、従前の図書館という概念を打ち破るような形で新たな提案をしていく、市民サービスとして提案をしていくようなイメージを、これは学校にも、単なるリニューアルではなくて、新しいものをこの中に注入していくようなイメージなんです。この辺は本当に将来のことなので、見えない中ではありますけれども、そんなイメージを込めて入れさせていただきました。

○伊藤教育長 私なんかの感覚から見ると、考えているだろうけれども、どちらにしてもこれからの学校にとっては普通のことでしょう。

○教育部次長 そうです。

○伊藤教育長 改革することとか刷新すること、それは方向性なわけじゃないですか。だから、これが改革・刷新しなければいけないことじゃなくて、これが道だよと普通に流れるほうがいいのかと少し思う。このことは改革でも刷新でもなくて、当然の流れだという方向性のほうがとったりもするので。特別大したことをやることじゃないじゃない。こんなのはこれから時代の流れで普通にあることだから、そういう方向性に行きます。ただ、普通に多機能化とか複合化のほうがわかる。でも、この言葉ですずっと出したときに、わかりやすいか、わかりにくいかとなったときに、考え方はよくわかるんだけど、教育委員会としてこの言葉をこれからずっと使っていくとなったときにいかなものかなと。

○平井委員 先ほどから、市の方向性の中に盛り込むということで、各課で公共施設の計画が出てくると思うのですが、今は並行でそれぞれの課が出していくという形なのですか。いろいろな今回の基本的な考えというのは。

○教育部次長 再編計画ということで、教育部長から先ほどご説明していただきましたけれども、財務部で市の公共施設全般の取りまとめを行っている。この策定に当たっては、庁内の各課からも、状況であるとか意見だとかを取り入れて、その中にまとめています。今後は個別計画ということで、例えば道路だったら道路、コミセンだったらコミセンとかというふうに、個別計画で整理していきましょうということに今、内容が整理されてきているのです。ただ、教育委員会については、公共施設の半分以上を学校が占めるということもありましたので、個別計画については先取りして行っている感じです。だから、再編計画の策定作業が完全に終わっているわけではないけれども、ここで個別計画の策定作業に入ります。11月定例会のときに、今後、契約作業に入ってきますよということでお話をさせていただきましたけれども、補正予算を組んで先行して行っています。かつ先行する



計画の中で、学校部分についての基本的な考え方を再編計画にもきちっとリンクさせることで両計画のバランスをとる。そんな状況なので、他のセクションではまだそこまでの動きというのはしていないのが実情です。

○平井委員 他のセクションと今後話し合いをしていくのだとすると、公共施設も学校だけではなくて、特にここに載っている複合化という部分で。そういったときに、改革・刷新という言葉が今後、教育委員会として使ってはいくけれども、他課と話し合いをして、公共施設を複合化していくときに、この言葉が通用するのかどうかというところが。

○教育部次長 ですから、今回、再編計画の中にこの基本的な考え方が入りますと、今度は全庁的な話になるのです。そうすると、例えば今の、これまでの学校の施設の枠にとらわれないで、多機能化という他のセクションの施設も取り込む形になってくるだろうと。それが今回の再編計画に、教育委員会の学校施設再整備計画の基本的な考え方を取り入れる最も大きな意味だろうと思っています。

○伊藤教育長 そうやって考えると、本当に議論しなければいけないことなのです。簡単に言うと。議論して、皆さんに納得していただくということがとても必要なもので、そういう意味で皆さんにご意見を出していただいて、もちろん質問から始まってもいいし、そのように私は考えております。

○平井委員 大きく分けたら、やっぱりこの1. 2. 3. って何だろうなというふうには思いますよね。再整備、再編成、改革・刷新という。まだ改革・刷新というのがちょっと……。

○伊藤教育長 言葉のレベルが完全に違うよね。

○教育部次長 イメージ的に言葉で言いあらわすのは難しいのだけれども、再整備、再編成というところから来て改革・刷新となると、流れ的にというか、言葉のつながりでもう少しほかのものがあるのかなという感じはしないでもないです。

○海野委員 最初に「『持続可能』な『夢』のある計画」とうたっているのですから、3番目に夢のあるというのをもう少し織り込んだ内容にしたらどうかなと思うのです。これだと、表題から見ると、本当に改革・刷新だけで、夢がないように。もう少し子どもたちにとって希望を、未来につながるみたいな言葉がここにあらわせたらいいかないかと思ったのです。全体的に、役所で作った、本当にかたい言葉が使われているなというふうな印象でした。何かそういう言葉が見つければ。

○教育部長 担当の課長から全体を説明させていただいて、やりとりをしていく中での

話なのですけれども、やはり教育委員会として、大きく2つに分けた2.のほうというのは、ここで決定するというよりは、もっと議論を深めていく必要があるのかなというふうに今は感じております。そうであるとするならば、この1.のところだけ公共施設再編計画と整合を持たせるためのコンセプト。コンセプトというのは大まかな考え方ということで整理して、例えば市長と話し合いをしていく中で、最も大きいものはここで決めていただくという形の中で、もう少し時間をかけて練っていくという考え方もいいのかなという、そんな気持ちも出てきました。

○松樹委員　そういう方向性でも私は構わないと思うのですが、1つだけ。行政として、サステナブルというか、持続可能という言葉。行政運営というのは、学校も持続可能でなければならないと私も思うのです。あえてここに持ってくるという意図は……。

○教育部次長　正直、それだけ危機感があるということの裏返しです。実際にこれまで人口減少社会というのを迎えたことが我々の時代はないので、初めてそれに直面をする。当然その労働力であるとか、もしくは税収なども右肩上がりにはならないだろうと。そういった中、全ての建物を、58棟あるものを全て建てかえることは財政的にも無理があるというのはもう見えてきているので、実際に学校運営であるとか行財政運営であるとかということ考えたときに、それを継続的にするためには、やはりこの言葉はあえてと言うのでしょうか、危機感を込めて入れさせていただきました。

○松樹委員　もちろん、学校施設ですので持続可能というのは大前提の話だと思うのです。それを行政の言葉としてあえて持ってくるという説明をもう少し出したほうが、この部分ですね。先ほど教育部長がおっしゃっていましたように、計画策定の教育委員会の考え方という中で、この辺をもう少しボリュームを膨らませて説明というか、書いたほうが、これだけ読んでみると、えっ、だって当たり前の話じゃんとかと私は見て思ってしまったのです。学校施設の持続可能って、当たり前のことをやらなければいけない話です。その後の未来のえびなの子どもたちに夢を与えるというのは、すばらしい話というか、これはこれでよいのだと思うのですけれども、それとあと、地域を巻き込むという話もありますので、その辺も何かもう少し膨らませて書かれたほうがいいかなという気が私はするのです。意図が伝わる。伝えるのはペーパーですので、よいかなという気はします。

あともう1点、下のほうはまた練り直すということだったのですが、例えば上の公共施設の効率化（床面積の減少等）は公共施設全体の話だと思うのですが、下のリオーガニゼ

ーションの話でも施設の効率化（床面積の削減）とも出てきているのですが、これが、つながりが、例えば施設の効率化イコール床面積を減少させることなのか、それが効率化なのか、ちょっと思ってしまったのです。例えばこのコンセプトにのっかっていったときに、では、再編成するときはやはり床面積を削減しなければならないんだみたいな話になってしまわないかなと少し思ったのです。もしかしたらですよ。せっかく複合施設をつくるときには、今よりももちろん床面積は大きくなる、もっとゆったり教室をとってやっていきましょう、もっとゆったりやっていましょう、そういう海老名の考え方ですというのが出てくるかもわからないわけですよ。何かここで考え方を縛ってしまっているような気がしたので、これは別に施設の効率化を図るとかではだめなのかなと少し思ったので、上と意味合いがちょっと違うのかなという気が私でしたので、その辺をまたご検討いただければと思います。

○**教育部次長** 松樹委員にお話しいただきましたように、必ずしも縮小をかけましょうということだけではないのだと思っています。子どもたちの居住空間であるとか、あるいは余裕のある教室数であるということは、その中では当然考慮に入れていかなければいけないことだというふうに思っています。これはどうしても白書の流れがあるんですけれども、全体の中で公共施設の床面積が多いと、結果的にその維持管理コストだとか、そういうものに影響が出てくるというのが白書の中で整理されていて、それが結果的に公共施設の半分を占める58棟、床面積的に占めるところの学校の今後の対応が、今後の公共施設の再編の上では非常に重要な部分だという指摘がその中であるものですから、その辺を少し踏まえさせていただいたという。ただ、実際、だからといって縮小すればいいんだということではなくて……。

○**松樹委員** 課は切り離して、もちろんそれもそれで、お金のランニングコスト面だとか、今後またいろいろな細かいものが出てくるのだと思うんですが、その中では触れなければならない話題だと思うのです。この辺の中で効率化がイコールみたいになっていると、リオーガニゼーション、再編成していくと、効率化していくと、やっぱり床面積は減らしていく方向で考えているんだという話なのかなと思ってしまったので。

○**伊藤教育長** 完全にコミセンと学校が一緒になれば、市としての床面積が減るという全体の考え方でしかないから。ただ、これが教育委員会となったとき、人口減少が予想される中、健全な財政維持のためにも、公共施設の再編が必要となりますとか何かの中で、学校施設をやればもう事は済むんだけれども、これを読むと、教育委員会の学校の中の床面

積を減らすことのようにとられてもいたし方ないようなところが出てくると思う。だから、リオーガニゼーションの再編成のところも同じように施設の効率化（床面積の削減）、これは市全体としてはそうかもしれないけれども、学校施設としたら、ひよっとしたらほかを包含するからもっと広まるかもしれない。でも、市全体の他の施設と比べると、少ないかもしれないということはあるかもしれない。

○松樹委員 上の1. に出てくる床面積の減少等というのは、市全体の話だと思うのですが、下は多分学校施設の話だと思うので、これは意味合いがちょっと違うかなという感じを受けたので、ご検討いただければ。

2枚目とかは大丈夫ですか。まだこちらですか。こちらからいきますか。

○伊藤教育長 1枚目から。

○岡部委員 この再整備計画というのは、3ページでいう一番下、この絵に相当するものをつくる……。

○伊藤教育長 それに相当するものの基本的な考え方です。

○岡部委員 さっきお話があった、今、市の公共施設再編計画というのを策定中で、それは今年度末にでき上がるのですか。

○伊藤教育長 そうですね。

○岡部委員 それの審議会に反映してもらうために今回これを考えていると。

○教育部次長 はい。

○岡部委員 審議会は今まで何回もあったわけですね。

○教育部次長 そうですね。

○岡部委員 最終的には、この計画というのは30年9月、ここに何かを今回反映させてもらうということですか。

○教育部次長 そういう形になると思います。あとは、先ほどちょっとご説明した、各個別計画を整備していく。私どもがつくろうとしている学校施設再整備計画は個別計画に位置づけられています。

○伊藤教育長 ただ、審議会がこれを認める、認めないではなくて、審議会に諮っておいたほうが。これは後で大変なことになるよ。そういう意味で、何月何日の審議会で話し合っていて、それが最初言っていた、本の中にこの言葉が出る出ないは別の話なんです。審議会で提案して教育委員会で基本的な考え方を承認していただきますということがわかればいいので、それをもとに教育委員会はこれを進めましたという段取りというのは言葉が変

ですけれども、そのことになると思うのです。だから、実際間違いなく再編成にするのか、それとも各19校を全然違った機能で存続させることのほうがよいのか何かというのは、かなりの論議になるし、実際地域の人たちはまた、何だよ、おまえら教育委員会は俺たちの学校を潰すために始めたのかとか何かという誤解なんかも出てくるわけだから、この辺をすごく十分審議しなければいけない。ただ、こういう言葉の基本的な考え方については、そこで提案して、一応了承をいただいた中で教育委員会は進めていますという流れが欲しいというか、必要だなということだと思ふのです。

○岡部委員 どころ辺までを今回言うておかないといけないのか。

○教育部次長 そうしますと、実際にこの計画策定の中で、では、どういうものを策定して、到達点としてどういうものをイメージしているかというところなんですけれども、今、短期、長期、超長期という3本立てで考えているのです。短期というのはおおむね5年からの10年程度で、まだ子どもたちが余り減少しないことを念頭に置きながら、老朽化している施設を整備していくイメージです。これをきちっとアクションプランとして整備計画をまず1つ立てていきたいと思っています。それから次が、20年程度、それが長期です。超長期で40年先ぐらいをイメージしています。白書の中での人口のシミュレーションを見ますと、20年程度では、海老名の場合には子どもは大きく減らないだろうというふうに出てはいるんです。ただ、将来的には、40年後には、ご多分に漏れず海老名も人口減少局面に入ってくるということなので、そこまで見通した計画をつくることができればなと考えています。ただ、40年先のことなので、本当にどこまで見通せるかというのは非常に疑問ではありますが、白書、それから再編計画がそういう流れで来ていますので、この個別計画についてもそういう整理をしていければなと思っています。なので、特に3のリノベーションの部分については、本当に将来を見通して夢のある計画にしていくことができればと思っはいるのです。到達点としてはそのようなイメージです。

○伊藤教育長 難しいよね。

例えば、私はこういう言葉はあまり好きではないから、地域に愛される学校をつくりますとか何かのほうが普通に耳に入ってきて、刷新とか何かではなくて、地域の核となる学校、地域に愛される学校づくりとか、そういう言葉のほうがすごく、教育委員会らしいというか、言葉としてはよいのだから、そういうのも含めて、教育部長が言うように下の部分は別にして、上の部分を上手に膨らませたほうがよいのではないかな。そういう中で再整備や再編成や多機能化や複合化を考えていく、含めた計画を策定しますという必要な、

わかる言葉を上に並べたほうが、拾ったほうが多分わかりやすいなと思う。

○平井委員 市の方向と教育委員会の方向が文章の中に入りまじってしまっているような気がするんです。例えば「健全な財政維持」とかというのがあるんですが、これはやっぱり教育委員会ではなくて、市全体のものとして捉えていいと思うので、教育委員会ではこういう文言というのは要らないかなとも思うし、床面積の減少とか、入れるならば教育委員会としての細かい説明が、先ほどから出ているようなことが必要かなということ。

それから、2つ目の丸が、少しひっかかる。「未来のえびなの子どもたちに」というと、今現在の子どもたちに夢というのはどうなのかなと。先々はあるけれども、では、今の子どもたちにそういうものが、先はあるけれども今はって。その使い方も、確かに未来という言葉は私たちも使っているんだけど、今は置き去りで、先かよとなるのではなくて、今を見据えながらというようなところでは、やっぱり再整備が必要なんだろうし、行く行くは再編成も必要なんだろうしというような。子どもたちに、今もあれだけでも、先々も夢がありますよというようなところをやっていかないと、ただ未来というのを使ってしまうと、今が置き去りになりかねないかなという思いも少ししてしまう。

○伊藤教育長 えびなっ子しあわせプランにあるでしょう。絶対今と未来の子どもたちになって、確実に今の子ども、一番最初に出したときは未来の子どもの幸せを、今の幸せのためにという言葉をおざと気をつけて入れている。そういう意味で、そのほうがよいのではないかな。「『持続可能』な『夢』のある計画」というのは、すごくよく考えたなと思うぐらいすてきな言葉だね。ただ、今、平井委員が言ったのは、なぜこれが始まったかという前振りが必要な。その中の学校施設なので、その前振りがどうしても必要になるので、そこは少し。公共施設の効率化が求められていますというところで、効率化だけでは掲載できない。その言葉をちょっと修正するとすごくよくなると思います。その中で、学校施設はこういうふうな状況であって、今後、さっき言ったように、再整備とか、再編成とか、多機能化と複合化を考える必要があると考えています、夢のある、地域に愛される学校づくりのためにその計画を立てるとか、策定しますとか、何か言葉を……。

○平井委員 海老名にとったら、高度成長期がやっぱり大きいかなと思うんです。この「高度成長期に整備された学校施設」というのが昭和何年ごろなのかなとなったときに、そこから考えて「老朽化が進み」というようなところを持ってこない。突然、読んだ人が何だろうと思うのではなくて、やっぱりこういう海老名の現状というものを少し語りながら……。

○伊藤教育長 それは逆に丁寧にやったよね。何年から何年、何10%が建てられたということ。

○教育部次長 例えば今、30年以上の施設が8割を超えています。その辺丁寧に書いてあると思います。

○海野委員 もっとわかりやすく具体的に、海老名はこういう考えを持っていると。

○岡部委員 今の段階では2ページの1. をもっと膨らませて、この中にいろいろと入れていくみたいなほうが。最終的には個別計画をつくるという話なので。あと、夢のあるというのは、3ページは今言う段階ではないのかもしれないけれども、やっぱり夢を語るステージが市民参加なり、あるいはどこかで、もっと若い人の意見というか……。外部委員会の中に入れるとしゃべりにくいかもしれないけれども。

○伊藤教育長 「etc…」のところ、俺もetcってこんなところで使うなと思うんだけど、ここの言葉が今、岡部委員が言うように鍵になるかもね。

○岡部委員 新成人とか若い人、あるいは小学生、中学生でもいいと思うのです。自分が行きたくなるような学校。まさに夢なんだろうけれども、それを行政としていろいろな制約の中で落とし込んでいって、形づくるんだろうと思うのです。

○伊藤教育長 仮称でいいから、学校夢委員会とか何かをつくって、子どもたちの意見をきちんと聞いてほしい。etcの部分に。

○松樹委員 私もこのetcは……。

○岡部委員 床面積の減少とかでは寂しい話になってしまうから。

○平井委員 作文でも何でも子どもたちが書いて。

○海野委員 未来のことをね。

○平井委員 そうそう。少し参加できるみたいなことでも。

○岡部委員 教育委員会が出す学校施設は、国が、これからの学校をどうしていこうとか、どうあるべきかとか、県もあるでしょうけれども、それとの整合性みたいなものもあるのではないのかなと思うのです。

○伊藤教育長 間違っていないです。

○岡部委員 その辺の整合性も文章の中には盛り込んでいけばいいかなと思いました。

○伊藤教育長 でも、海老名市立なので……。

○岡部委員 市立でもあれでしょう。

○伊藤教育長 補助金とか何かをもらう制約の中では、文科省は、そんなものは学校施設

と認めないとか言うかもしれないですけども。

○岡部委員 もらわなければいい。

○伊藤教育長 もらわなければできないですから。そのためには。でも、それ以外の縛りはないですよ。

○教育部次長 今、岡部委員がおっしゃっていただいたように、そういうものも踏まえながら、全国的に見ると、もう既に学校の廃校というのが実際相当進んでいますけれども、では、海老名の特性としてどうなのということ踏まえた上で、地域に責任を持つという意味での計画をつくっていきたい。海老名の人口の将来推計を見たときに、どういう状況にあるのか。それを今、例えば縮小するのがよいのか、もしくは拡大するのか。子どもたちの数が急激に増えていると。地域によっては拡大しなければいけないというところもあるかもしれません。だから、その辺を十分踏まえた計画にしていく必要があるとは思っています。ただ、さっき、これも教育長おっしゃっていましたが、では、40年後まで見通せるのかということ、これは本当に難しいだろうなと思っはいます。

○伊藤教育長 大丈夫、そのころの人はそうやって考えたのだと後の人は思うから。何だ、こう考えたのか、同じように考えたんだと思うかもしれないし、それはそれでよい。

○教育部次長 そういう意味では、etcのところにも今の学校夢委員会というお答えがありましたけれども……。

○伊藤教育長 子どもたち、若者の意見とかを言えたらよいかもしれないと思う。

○教育部次長 ここはまた担当のほうでも検討しています。さまざまな方法があるので、何か1つの方法だけでそれをもって市民の意見だということは独善的になりがちなので、幾つかの手法を組み合わせながら、広く市民の意見を聞けるように考えていきたいと思っはます。

○伊藤教育長 でも、岡部委員が言うように、子どもたちは先のことに責任はとらないけれども、子どもと若者に聞くのがよいかもしれないね。

○岡部委員 現実的ではないかもしれないんだけども。

○伊藤教育長 それでもそういう手法でやったほうがよいかもしれないね。

○岡部委員 最終的にはこの四角のパターンにおさまってもよいけれども。

○松樹委員 今、岡部委員がおっしゃったように、etcというところが多分キーワードになってくるのだと思うのです。私もぜひ本当に若い子、あと、広く意見を求める手法とか、例えば、今はあまりやっていないかもしれないけれども、市民討議会とか、18歳以上



の人を台帳からランダムに人数を決めて選んで、意見をもらうという。例えば1日の日当、手当が出るとかという、本当に何かの会の代表者とか、そういうことではなくて、本当にランダムに選んで手紙が来るみたいな手法もありますし、さまざまな意見。でも、申しわけないけれども、正解のある話ではありませんので。40年後、例えばですね。さまざまのところから掘り起こしながら、意見を集約していかなければならない話ですので。でも、意見を聞くということは大切なことですので、このetcを充実させていただければなと思っています。

それとあと、平成30年3月で素案が出て、9月に完成って、半年ぐらいしかないわけですね。この半年で大丈夫なのかなという気はちょっとしたんですが、これは9月というお尻が決まっているわけですか。

**○教育部次長** まず、30年3月については、今年度の9月補正予算でコンサルト業務について委託料の議会議決をいただきましたので、それが3月30日だということです。ですので、素案づくりは、コンサルを使いながら整理をしていこうと。ただ、市民参加手法については、当然たたき台が必要だと思いますので、その時期については若干ずれてくるだろうと思っています。素案ができたところに、全部完成版ではなくて、じゃ、このタイミングで意見を聞こうとか、例えばひとつ別途でアンケートをとってみようとか、先ほどご提案があったような、まず身近な子どもたち、もしくは若者から意見を聞いてみようとか、そのようなことができるかなと思います。

次に、29年9月については、先ほど言いましたように施設の80%が30年を超えている、施設によっては40年を超えているところももう既にあります。このように、老朽化が激しいところがあるので、できることならば、平成30年度予算に整備計画をのせたいというふうに思っているのです。先ほど言いましたように、向こう5年からの10年の計画については、具体的な整備計画がうたわれてきますので、その計画に基づいた予算編成を組みたいという思いがあります。それが結果として、この表の中に書いてある29年9月までには完成させたいなというところがございます。だから、結構タイトだなと思っています。

**○松樹委員** 少しタイトですけれども、それに並行してやっていくような形だと。今、教育部次長がおっしゃったように、素案が、完成までではなくても、外部委員会が先行してもうスタートしていて、情報を出して、意見をもらって、また他からも若者なり市民と議会とかいろんなところでやって意見をもらいながら、素案を少し修正しながらという形になるのかもしれないですけれども。

○伊藤教育長 だとしたら、これでいったら、矢印の30年の途中から入っているんですよ。来年29年度で、この計画自体は繰り越して年度で終わるのですけれども、全体のこういう外部委員会とか若者の、さっきの夢委員会みたいなものは29年度途中からもうスタートさせて、最低1年以上はかけてやるというふうにすればとか思うのです。ただ、今、教育部次長が言うように、次の年度の予算に反映させるためには一応9月30日がリミットになるので。

○伊藤教育長 どうですか、皆さん。これで結構みんな教育委員会として納得して出せますよね。だから、あと、1. の作文の部分はもうちょっとさっきのご意見を踏まえて練っていただいて、それをまた委員さん方に、ここで了承していただいて確認するというところで出すのでよろしいですか。

でも、ここでまとめてはいけないのか。

○松樹委員 1点だけ。ぜひコンセプト、考え方の中には地域性だとか、例えば有馬小学校、中学校のあの辺のところ、海老名小学校とか、時代というか、環境も違いますし、これだと全く同じものをぼんぼんという時代で建ててきたのだと思いますけれども、これからはやっぱり地域に合ったというのであれば、地域に合った施設というか、学校になるべきだと私は思うんです。その辺のワードが入ってほしいなという気がします。それも今後考える方が、地域性というのを少し考慮に入れながらという形だと思いますので、そんなワードもちょっと入れていただくとありがたいなと思います。

○伊藤教育長 ほかにご意見はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、この後、事務局、担当のほうで、1. 計画策定の基本的な考え方、「持続可能」な「夢」のある計画ということで、それらについての文章の説明表現を膨らませて、さまざまな委員の意見を入れてそこに表現していただくのを確認するというところで、議案第1号を採決しますけれども、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます、よって、日程第1、議案第1号を原案のとおり可決いたします。

---

続いて、日程第2、議案第2号、海老名市就学援助費交付要綱の一部改正について

(非公開事件) 審議を行います。

ただ、これは3月の議会で予算等が承認されますので、議員にはまだこのことを説明しておりませんので、会議を非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、会議の非公開についての採決を行います。会議を非公開とすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、会議は非公開となります。

(非公開事件開始)

---

(非公開事件終了)

○伊藤教育長 これで全て案件は終了しましたので、1月教育委員会臨時会を閉会といたします。どうもありがとうございました。

---

---